

山際 藤吉さん
木場・七十二歳

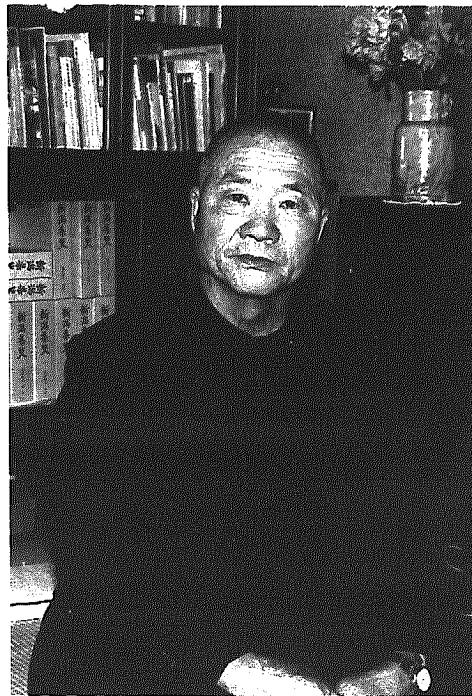
「温故知新」という言葉を辞書で引いてみると、昔の事を研究して、新しい物事に適応する知識を得る、と書かれている。不便で、「生活の知恵」でおぎなつた昔。とかく便利さに溺れがちな現代では見習うべきことが多いようだ。

昔の暮らし振りを研究し、町の文化財保護審議委員で常民文化資料館の管理をされているのが山際さん。「マスコミ」では、郷土史研究家なんて言葉をよく使いますが、私の場合は気ままに文献を調べる程度で、とても研究家なんてと謙遜される。

千歯（竹製の歯で出来ている）などは特に珍しい物で、回り小屋は県の文化財の指定を、と言う話もあります。それらを使つての当時の暮らしは「昭和十年頃は電灯といつてもせいぜい茶の間に一つある程度で

コードが長く台所仕事をする時は電灯を引っ張つていつて吊るしていた様です。また、夜寒くて衣類を出す時など暗いので提灯を使い「ました」家の中で提灯など今では考えられないが、「風が吹いても消えにくいし、家の各所に提灯かけ

研究を始めたのは、「若い頃から美術品に興味があつて昔の陶器類を集めました。青木さん（元町史編さん課長）から委員に誘われて、それからですね」



写真/山際さん。後は山際さんが全巻あつめた新潟県史。「これがあると県全般的な昔の生活がわかるのでよいです。ただ、地方の郷土史などと比べると若干ニューアンズの違いがあるので、地方の郷土史も、なるべく読んでいます」と研究熱心だ。

「逐次調べて行きたいと思いが、あまり集中すると疲れるので油絵を描いたり、焼物を眺めたりしてゆつくりやっています。疑問が解決しても、新たな疑問が生ずる。そういう意味では学問とは終りのないもの」とおっしゃる。最後に何か一言を「これから未来のある若い人には郷土の古きよき事など知ってほしい。現在は過去の上に成り立っているのだから」古き諺を実践してみる事も、現代を生きる我々にとって、大切な「生活の知恵」なのかも知れない。

早いもので、広報担当になってから一年が過ぎようとしています。この一年間長かったような短かったような……。でも、この一年間広報を通していろいろな人と知り合えたことは、編集子にとって貴重な財産になった気がします。新年度も楽しい話題や頑張っている人など、どしどし紹介していきたいと思いが、皆さんのまわりにそんな人、そんな話題がありましたら、是非ご連絡ください。▼連絡先・役場企画商工課広報統計係（☎377-3101、内線336）さて来月号は議会三月定例会などご紹介する予定です。

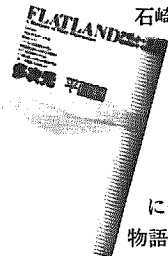


黒崎町常民文化史料館には明治中頃から昭和十年ぐらいまでの農村の生活が分かるように、当時の生活用品や農具などが展示されているが、他にないような史料はあるのだろうか。「畜動舎（回り小屋とも言われる。八角形で牛をつないで穀物などの脱穀に使われた）土ウス（米の粃とりなどに使われた）足こぎ式と手動式の稲こぎ機

ほんの一冊

「多次元★平面図」

アボット著
石崎阿砂子・江頭満壽子訳



19世紀末にイギリスで書かれた数学のファンタジーである。高さという概念のない平面国に住むスクエア氏が語る物語。住民・風土・生活に

始まり歴史・厳然とした階級のしくみ・法律に至るまで、淡々とした記述が続く。後半、このスクエア氏が師ともあおぐ球によって三次元の存在を知らされ、真理を二次元の平面国で広く知らしめようとして投獄されるまでが描かれている。なによりも数学的に書かれた平面国の様子がとてもおもしろい。数学が苦手な人も楽しめます。

(中山佳奈恵)

〈人の動き〉

	前日比	前月比
2月末日現在	[+129]	(+3)
人口	[+49]	(+2)
男	[+80]	(+1)
女	[+128]	(+5)
世帯		
2月1日～末日		
出生	49	転入
婚姻	46	転出
死亡	16	



●おわびと訂正

3月1日号の4ページ、平成3年度決算の歳出の内訳、民生費のところをデザイナーサービスセンター事業とすべきところをデザイナーサービスとしてしまいました。また16ページの人の動きは1日末日現在が12月末日現在となっていました。おわびして訂正いたします。